

環境検討部会（第6回）議事概要

- 2 1．日 時：平成31年3月15日（金）10：00～11：00
- 2 2．場 所：思川西部土地改良区 会議室
- 2 3．出席者：別紙のとおり
- 2 4．議事概要

本部会で検討した内容は、（1）今後進めていく事項、（2）今後検討・確認する事項、（3）継続して取組む事項 の3つに区分されるため、議事概要は3つの項目に分けて整理する。

（1）今後進めていく事項

（委員）

- ・底質調査については、生物の生息環境との関連が検討できる様、調査方法等を検討する。
- ・ドジョウ・カラドジョウの生息調査については、これらが生息できる環境かどうか最も重要な課題であることから、ドジョウ類として一括して個体数の整理等を行う。（なお、調査時においては、可能な限りドジョウとカラドジョウの同定を行う）
- ・受益地全体の生態系ネットワークの把握が重要であることから、末端用排水路等における生態系も重要であるとの認識をもって取りまとめを行う。

（委員）

- ・通年を通じた調査結果は、水田地域の典型的な生態系を表すものである。と評価する。

（委員）

- ・魚類調査：工事着手前の現況を把握するため調査(事前モニタリング)について、了解を得た。
- ・水生植物：工事工程により新荒川排水路が、平成31年度、平成32年度の冬期において落水状態となる。これにより定着状況の調査に影響が生ずることについて、理解を得た。

（委員）

- ・ナガエミクリの移植について、同種の定着は比較的容易ではあるが、冬の落水の影響を考慮して移植を行うことについて了解を得た。
- ・移植に当たっては、富山県の玄手川の事例とした文献を参考とすること、また、平成31年度に同地区を対象とした現地視察を行うことについて了解を得た。

（2）今後検討・確認すべき事項

（委員）

- ・多面的支払交付金活動組織によって末端用排水路等を対象とした生き物調査が行われていることから、本調査の結果と合わせて受益地全体の生態系ネットワークの把握を行うことが重要。

（事務局）

- ・平成 29 年度に多面的支払交付金活動組織が行う生き物調査の結果も合わせた整理を行った。データの蓄積状態を考慮して、改めて生き物調査の結果を整理する。

（委員）

- ・全国的に見ても工事前～事業完了に至る歴年データが蓄積されている事例が少ないことから、歴年でデータが蓄積できる様な対応が必要。

（委員）

- ・環境配慮施設の具体的な設置位置、箇所数について、水路全体の計画として整理し、確認する。

（３）継続して取組む事項

- ・保全対象種について、ナマズ、カマツカについても注目して整理し、保全対象種とすべきか検討する。

（事務局）

- ・保全対象種について、ナマズ、カマツカについても注目して整理し、保全対象種とすべきか検討する。

（委員）

- ・水路に対し水が水路外へ出て行くのか、湧水的に水路内へ入ってくるのか、こうした現状を把握するため『観測孔における地下水位調査』の様子をみたい。なお、地下水位観測時には周辺の田んぼにおける水張り状況との関係にも注意すること。
- ・地下水位が高いところ、低いところ、ざっくりとでもよいのでそうした情報があるとよい。

（委員）

- ・地下水位観測調査については現在実施中。調査結果の蓄積・整理等ができた段階で提示する

（委員）

- ・ワンドを 1 箇所設置し、モニタリングを行い、その結果から最適な対策を検討するといったアプローチが必要。

（事務局）

- ・新荒川排水路のワンド設置後、継続的に植物の繁茂状況、生き物調査等を実施し、後年度の環境配慮対策（西清水川のワンド計画）にフィードバックする。また、完成後のイメージを地元関係者と形成・共有する。

（委員）

- ・対策工の形状、施設の維持管理のあり方について、関係土地改良区、多面的機能支払交付金活動組織、地元自治会等への説明会やワークショップを実施し、検討を進めるという方法はよい。

（事務局）

- ・新荒川排水路のワンド計画について、間中地区、上国府塚でワークショップを実施し、ワンドの位置や形状について意見をもらった。今後、維持管理のあり方等をテーマとしたワークショップを実施する。

（委員）

- ・落差工については、今後、詳細検討が進み、地点など明らかとなった段階で整理する。

（事務局）

- ・比較的規模の大きい末端水路との接続部については、連続性に配慮した合流工とする。詳細設計の段階で、遡上の対象魚種や形状など本部会で確認する